



サイボーグの世紀

～人間に近づくロボットに近づく人間～

櫻井圭記(さくらいよしき)

プロダクションI.G

脚本家

サイボーグ技術の日常化

- ★ パワードスーツ HAL
肉体のエンハンスメント



- ★ DBS, BCI
知覚系のエンハンスメント



©2002 - www.med-ars.it

サイボーグが登場するSFアニメ

★『攻殻機動隊』

・時代設定は2029年

・ほとんどの人は自らの脳をネットワークに接続しており(電脳化)、肉体の一部もしくはほとんどを「義体化」している者もいる。



サイボーグの位置づけとは？

その前に...若干唐突ながら「人称代名詞」という切り口で、現代の流行リモノを分類してみる。それにより見えてくるものもあるのでは？

★ <一人称単数>

パソコン： iMac, Windows Me

音楽プレイヤー： iPod, iTunes

ケータイ： i-mode, i-appli

★ <一人称複数>

ゲーム機： Wii

★ <二人称>

SNS動画共有サイト： YouTube

★ <三人称>

ネット、インフラ全般： IT

人称代名詞に着目した先行研究

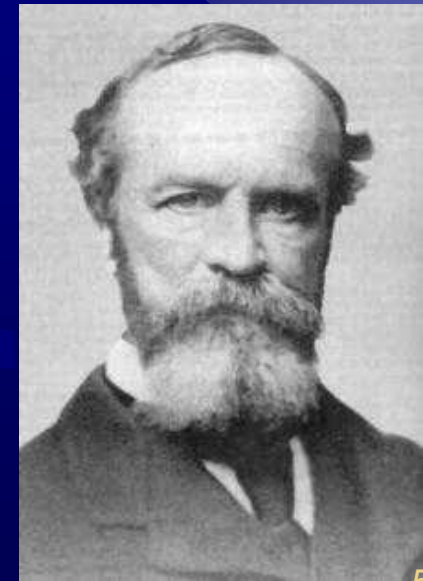
- ★ W.ジェームズ (1842 ~ 1910)

アメリカを代表する哲学者, 心理学者, 生理学者. プラグマティズムの先駆者. 日本の西田幾多郎に影響を与える.

- ★ 代表的著作

『心理学原理』(1890)

自我に関する論考において
主我「I」と客我「Me」を区別



ExplosionとImplosion



- ★ M.マクルーハン (1911 ~ 1980)
カナダ出身の英文学者, 文明批評家
- ★ 代表的著作
 - 『メディア論』(1964)
 - 『ゲーテンベルクの銀河系』(1962)
- ★ 電気・電子メディアは「内爆発」(implosive)的
と発言

電話の変遷にみるケータイの 「一人称」化

★ 置き場所の変遷

- ・ 玄関
- ・ 勝手口、台所（家電として）
- ・ 居間、食堂（AV機器として）
- ・ 各部屋

- ・ 各個人により携帯される

★ 「場所」のメタファから「身体」のメタファへ

未来の世界の イヌ型/ネコ型ロボット

- ★ 形状：「仔ライオン型」ってなに？



「イヌ型」 ERS-110/111



「仔ライオン型」 ERS-210

名前に隠された暗喩

- ★ 「AI」を搭載した「相棒」
- ★ 「相棒」 = 「他者」として認識されている
- ★ 言うなれば「二人称」的ではないのか

では「三人称」は？

★ 森元首相の失言. 「これイットでしょ？」

★ 「Information Technology」の略語だというのが、実はそうではないのではないか.

「IT」=「それ」と呼びたかったのではないか.

「IT」に当てはまる言葉として「Information」と「Technology」が選ばれた、という順序ではないのか？

大雑把ではあるが、人称の区分がある程度、可能なのでは？

- ★ 「一人称」 = パソコン、ケータイ、音楽
iMac, Windows Me, i-mode, iPod
- ★ 「二人称」 = ロボット
AIBO
- ★ 「三人称」 = インフラ、ネット関係関係全般
IT

では、サイボーグはどのようなのか？？

サイボーグの位置づけ

- ★ ロボットが二つの側面において姿を消していく、というのが、今後の二大潮流になっていくのでは？
そのうちの一つがサイボーグなのでは？

その1. 「ユビキタス」化（四人称的な流れ）
環境に吸収されていく方向性

その2. 「サイボーグ」化（一人称の復権）
人体に吸収されていく方向性

ユビキタスの事例

- ★ 環境+ロボット
uPlatea



サイボーグの今後の三大潮流

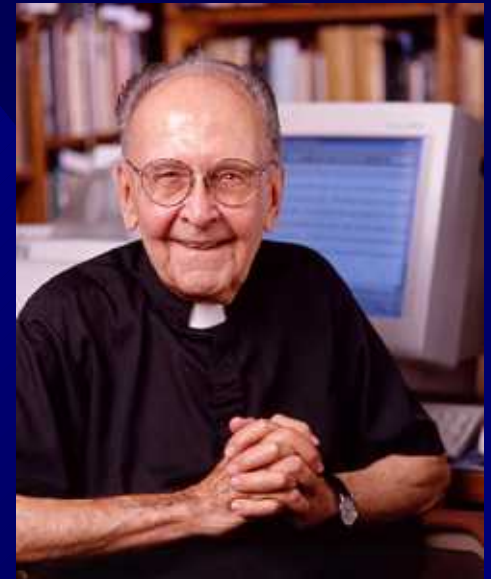
軍事（パワーアシストスーツ）

ファッション（ボディ・モディフィケーション）

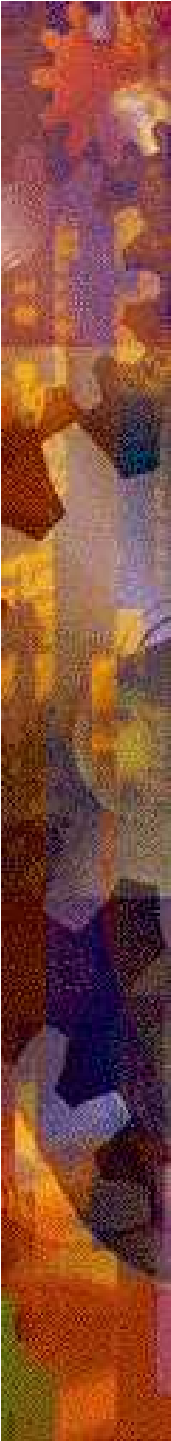
医療（ロボット義手）



コピーを模倣する オリジナル



- ★ W.J.オング (1912 ~ 2003)
アメリカの英文学者, 歴史家, 哲学者.
- ★ 代表的著作「声の文化と文字の文化」(1991)
- ★ 「文字」は「会話」を記述(コピー)する目的のために開発されたメディアながら, 一旦それが成立してしまおうと, 今度は「会話」に影響を及ぼし始める. 人はあたかも「書く」かのように「話す」ようになる. 言うなればオリジナルがコピーを模倣するのである.



ロボット(コピー)がヒト(オリジナル)に近づいてきているのではなく、ヒトがロボットに近づいてきている側面もあるのでは？

- ★ 「コンピュータ・ウィルス」の「ウィルス」という命名によって生じる意識
- ★ 「ユーザー」ではなく「オーナー」と称する傾向
- ★ 「見る」「聞く」「歩く」などという語も、厳密に言えば、そもそもアナロジー
- ★ その結果、我々の感覚が「ロボットの論理」とでもいうべきものに引っ張られるのでは？